

8/1 金曜日

# 不安なくす未来図示せ 介護保険負担増

## 論説

2015・8・1

介護保険の利用者負担が一日から増えた。対象は高齢者の一部だが、医療や年金に統じての「冷遇措置」だけに、不安は広がる。適正な負担は当然だが、弱者切り捨てにつながるのは許されない。

少子高齢化で、歳上がる社会

保障費用を抑制する動きが加速す

る。年金、医療、介護。国は高齢

者への支出を減らすのに躍起だ。

八月からの介護保険サービス利用時の「自己負担倍増」もその一つ。六十五歳以上で一定以上の所得がある高齢者の自己負担割合が、これまでの一割から一割に引き上げられる。

対象者は、原則、年金収入のみの場合で年二百八十万円以上の高齢者利用者のうち約六十万人いるとみられる。だが、制度改正の内容が複雑なため、利用者の混乱が心配だ。

負担増は昨年六月の法改正で決

まりたが、周知不足で高齢者の理

解は進んでいない。負担引き上げへの声高いやサービスの回数を減らす」ともありそうだ。

日本人の平均寿命(二〇一四

年)は女性八六・八歳、男性八

〇・五〇歳。超長寿社会を迎えて、

国は高齢者に負担増を求める。医

療面では、入院時の食事代を二〇

一六年度から段階的に引き上げ

る。年金では、物価が上昇しても

公的年金の給付額を抑える仕組み

が、四月から初めて実施された。

東京圏に住む高齢者の地方移住

促進、病院ベッド(病床)数削減、

ホームヘルパーなど介護職の人手

不足に拍車をかける介護報酬引き

下げ…。次々に打ち出されるうつ

した「高齢者いじめ」とも見える

施策を、若い世代はつから見て

いる。懸命に働き、家庭を支え、

納税してきた「人生の先輩たち」

の行く末が「れでは、若者は不安

を持ち、希望を持てないのではないか。

いか。

先日、福井市内であった五十一

六十代向けの年金対策セミナーで

は、参加者から老後の不安を訴

える声が聞かれた。「元気で老後

を送れるか」「誰も世話をしてくれないのでは」「年金はどうだ

もわかるのか」…。セミナーの講師は、「健康」「孤独」「お金」

が老後の三大不安と指摘。できる限り働き続けることを勧める。

だが、準備可能な現役世代の運

い、「これなり「自己責任」を求められた高齢者は対応できない。安心して心豊かに余生を送つてもいいのは、次世代を含む「社会的安定性」につながる。高齢者対策は「アヘン削減ではなく、国の未来図を描く取り組みのはずだ。